

令和7年12月3日  
危機管理部

## 令和7年度世田谷区災害時物資配送訓練の実施報告について

### 1 主旨

令和7年度世田谷区災害時物資配送訓練の実施結果について報告する。

### 2 訓練の結果概要

#### (1) 訓練目的

世田谷区の災害時物資配送計画（令和7年3月策定）に基づく、国・都の支援物資及び区の広域用防災倉庫の備蓄物資等を指定避難所に配送する一連の流れ等について、区及び災害時協定締結事業者・協定締結大学、また、関係機関が連携して実動訓練を行い、更なる物資供給体制の強化に資する。

#### (2) 訓練日時

令和7年10月11日（土）8：00～13：00

※「北沢地区防災訓練」と共同で企画・実施した。

#### (3) 訓練場所

NO	場 所	備 考
1	世田谷区役所東棟3F オペレーションルーム	災対物資管理部本部運営
2	ヤマト運輸 羽田クロノゲート	地域内輸送拠点（第1順位）運営
3	ヤマト運輸 成城営業所	羽田クロノゲートからの中継
4	国士舘大学	地域内輸送拠点（第2順位）運営
5	野毛広域用防災倉庫	物資積載・運搬
6	北沢中学校	指定避難所での物資受領

#### (4) 主な訓練内容

首都直下南部地震（都心南部直下型地震（M7.3））の想定（発災後12時間）の下、物資配送の重要な部分である「災対物資管理部本部運営」、「協定締結事業者等による配送」、「連絡・情報共有要領」等の基本的事項に重点を絞り込み、実施した。

①関係災対各部等の職員の対応能力及び危機管理意識の向上

②災対物資管理部本部運営内容及び各物資の主要な一連の流れ（手順）等の確認及び検証による実効性の向上

NO	区 分	内 容
1	災対物資管理部本部運営	状況把握、状況判断、関係部署との連携等
2	区の備蓄物資	広域用防災倉庫から指定避難所への配送
3	国・都からの支援物資	羽田クロノゲートから指定避難所への配送
4	国・都以外からの支援物資等	国士舘大学から指定避難所への配送
5	連絡・情報共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の新物資システム(B-PLo)運営</li> <li>・区の総合防災情報システム運営</li> <li>・MCA無線機やメールグループでの通信</li> </ul>

※別紙1「実動訓練対象のイメージ」を参照

③災害時協力協定締結事業者・大学、関係機関（警察、自衛隊）との連携強化

#### (5) 参加者等の実績

参加者		人数等
①区職員 (56名)	災対統括部（広報広聴課含む）	15名
	災対物資管理部	22名
	災対地域本部	19名
②災害時協力協定 締結事業者 (5団体21名)	ヤマト運輸株式会社南東京主管支店	3名（2tトラック1台）
	東京都トラック協会世田谷支部	4名（2tトラック1台）
	赤帽首都圏軽自動車運送協同組合	4名（軽トラック1台）
	世田谷リサイクル協同組合	4名（2tトラック1台）
	J Pロジスティクス株式会社	6名
③災害時協力協定 締結大学（2名）	国士舘大学（地域内輸送拠点）	2名
④関係機関 (6名)	北沢警察署	2名（警備車1台）
	陸上自衛隊第1普通科連隊	4名（小型1台） （中型1台）

※北沢中学校では、北沢地区の町会、自治会、商店街振興組合等の11個団体、約120名が配送車及び物資の現物を確認した。

#### (6) 実施成果

##### ①全般

当日は小雨となり北沢地区防災訓練は雨天プログラムで実施されたが、本訓練は実施計画通りに行うことができた。特に北沢地区防災訓練参加者や消防団等約120名に向けて、配送した区備蓄物資の品目・数量を現地現物にて示したことで、区の災害対策への理解を促進できた。

区民からも「赤帽、ヤマト運輸、陸上自衛隊普通科連隊の車両が加わったことで災害対応の実際について現実味が湧いた」との意見があった。

##### ②関係災対各部等の職員の対応能力及び危機管理意識の向上

一連の訓練状況の下に、具体的な状況把握要領や協定締結事業者等との電話及びメールを通じた連携を実体験するとともに、管理職においては状況判断要領等について理解を深め、その能力を向上させることができた。

また、それぞれの職責の理解や実体験を通じた危機管理意識を深めた。

③ 災対物資管理部本部運営内容及び各物資の主要な一連の流れ（手順）等の確認及び検証による実効性の向上

区職員や協定締結事業者等は、事前準備、本部運営、倉庫からの運び出し、積載、道路や避難所などの情報収集・共有、配送、警察との連携、災害対応時の体制などの基本的事項について確認し、理解を深めた。

また、国の新物資システム(B-PLo)運営、区の総合防災情報システム運営、MCA無線機やメールグループでの実務を通じて、タイムリーな情報共有の難しさを実体験するとともに、その重要性を再確認できた。

各配送事業者からは、災害時の物資配送の実際的な手順を具体的に確認できた、実際に備蓄物資を積載した訓練は初めてであり良い経験になった、トラックへの積載は卸下するときのことも考えればパレットは使用せず箱積みとすべきではないか等の意見があった。

④ 災害協力時協定締結事業者・大学、関係機関（警察、自衛隊）との連携の強化  
災対物資管理部本部運営や配送を通じて、お互いが顔の見える関係の中で相互理解を深め、信頼関係を高めることができた。

世田谷リサイクル協同組合からは、災害時の交通規制下にあっても物資配送に支障が生じないように、災対物資管理部と連携のうへ、東京都公安委員会に緊急通行車両・緊急輸送車両の「標章」及び「証明書」の事前交付手続きを行い、81台分の「標章」及び「証明書」を受領できたことで、組合員及び従業員一同、気を引き締めたとの意見があった。

※ 当日の様子は別紙2を参照。

### 3 主な課題及び来年度の訓練

#### (1) 主な課題

参加者との振り返りにより、以下の課題があがった。

##### ① 災対物資管理部本部運営訓練の継続

必要な資器材の準備、クロノロジーの要約要領、迅速な電話での情報共有要領、総合防災情報システムや新物資システム(B-PLo)への習熟が重要である。

##### ② 情報収集手段の改善

MCA無線機の使用に課題があることを踏まえ、更なる習熟が必要である。また、業者との情報共有（メールグループ）や連絡員の運用などの更なる具体化が必要である。

##### ③ 羽田クロノゲートとの連携要領の検討

災対物資管理部が連絡員を派遣する必要性を含めた、ヤマト運輸株式会社との連携要領の強化が必要である。

④区の備蓄物資管理業務委託会社との更なる連携強化

災対物資管理部や物資配送業者との連携要領の習熟が重要である。

⑤平素の業務と訓練準備・実施との両立

区職員の平素の業務も考慮しつつ、より効率的・効果的な訓練実施要領の検討が必要である。

⑥災害時物資配送計画への反映

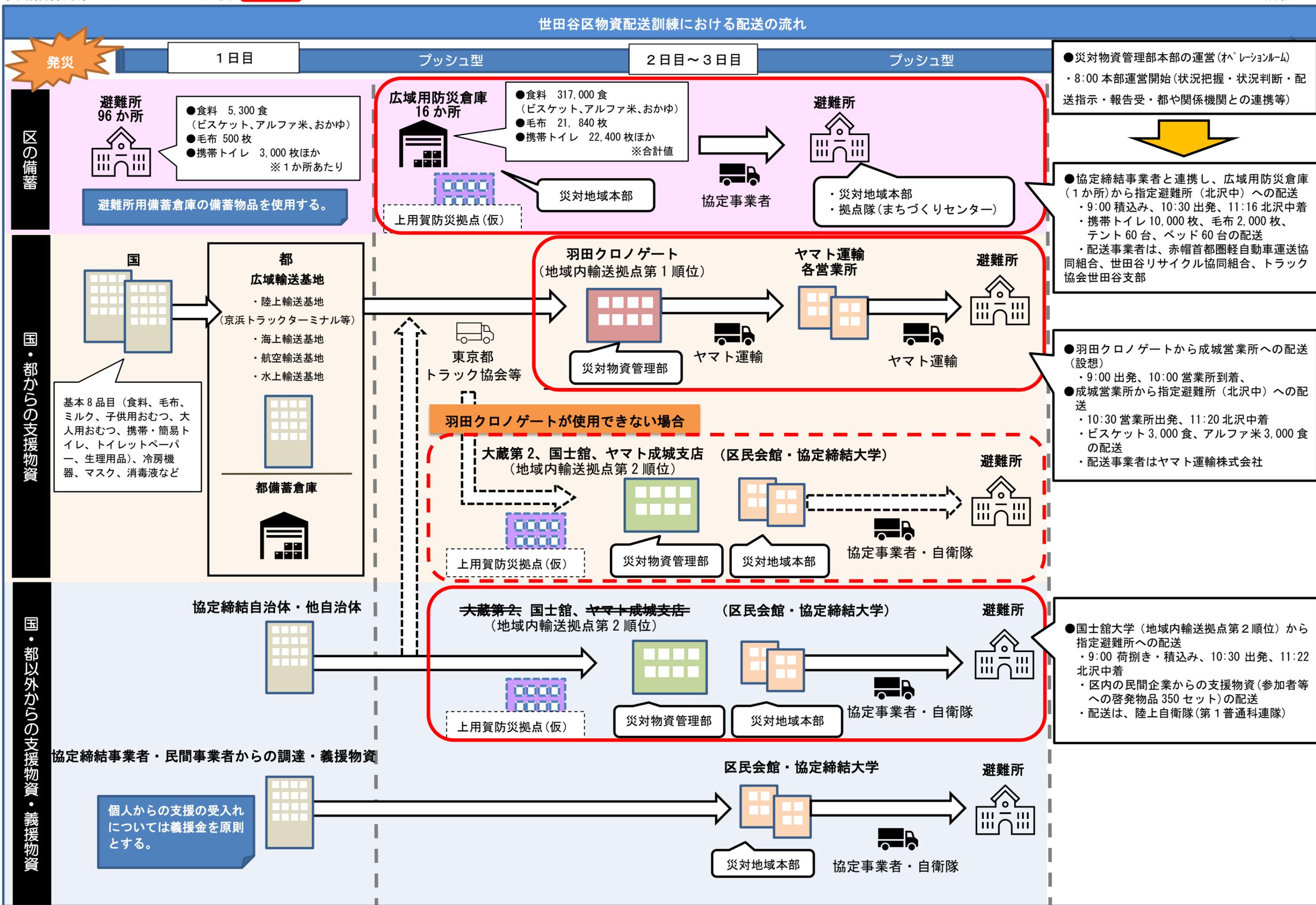
本訓練の成果や備蓄物資管理業務委託の成果を同計画に反映する。

(2) 来年度の訓練

以下の内容を主体に、検討を進める。

- ①本部運営訓練で、道路啓開などの困難性の高い状況を取り入れる。
- ②施設使用要領を試行・作成するための地域内輸送拠点訓練を実施する。
- ③協定事業者が広域用防災倉庫の位置や倉庫内を確認する。
- ④避難所での備蓄物資受け入れを行う。

世田谷区物資配送訓練における配送の流れ



## 訓練の状況

## 1 災対物資管理部 本部運営



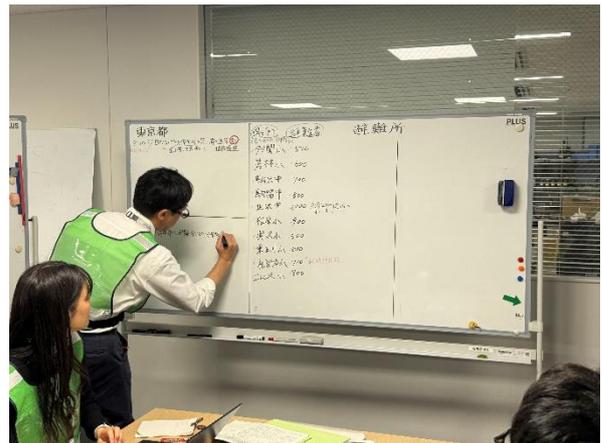
企画・災対物資管理部間の認識合わせ



災対物資管理部本部運営(情報収集・共有)



MCA無線による羽田クロノゲートとの通信



避難所等の状況把握(発災後約12時間)



道路状況や避難所情報の集約・分析



協定事業者間の認識合わせ・配送調整等

## 2 物資積込・配送



テント・ベッド（各 60 台）等の積載状況



都の物資(ビスケット・アルファ米(各 3000 食)の輸送



国士舘大学での支援物資の積載



発災後の交通規制への対応(井の頭通り)



北沢中学校に全車到着



物資について説明を受ける区民



配送された物資の現物確認



関係機関等との連携